


2024年度 園だより 9月

きたおおじ保育園

仲間たちが穏やかにおままごと。保育士にお料理をふるまっています。とても見ていて微笑ましい。「デザートはなに〜？」保育士が聞くと、「アイスクリーム〜！」仲間は嬉しそうに答えます。しばらくして、保育士のもとへアイスクリームが届きました。保育士は聞きます「なに味ですか〜？」仲間は答えます「ハンバーグ味〜！」ハ、ハンバーグ味のアイスクリーム！？なんと斬新なこと。そして、また別の仲間からもアイスクリームが届き。保育士は聞きます「なに味ですか？」「ポテト味〜！」ポポ、ポテトあじ！？保育士は大爆笑。なんとも楽しそうな食事風景です。そして、ついにわたしの所にも料理が運ばれ、美味しくいただき、恐る恐る聞いてみました。「デザートは？」「しお！」「え？なんて?!」「しーお!!」「しお?」「うん」この年になって初めての経験です。デザートは塩！！なんとということでしょう（笑）

<間違っているのはどっち？> 

なんとも楽しい言葉のやりとり。保育室は爆笑の渦でした。後で分かったことですが、その仲間は昨日マクドナルドに行ったそうです。だからハンバーグ味のアイスや、ポテト味のアイスが出てきたんですね。つまりその仲間はウケようと思ったわけではなく、ふつうに出てきたハンバーグ味のアイスだったんです。もしも、言葉至上主義の大人がそこにいたならば、「間違っています！」と正すかもしれません。ハンバーグ味のアイスなんて美味しくくないよ！とか、デザートは塩なんてかわいそうでしょ！とかね。

<真に受けないで…>



子どもとのお喋りはとても楽しいです。しかし、未熟な子どもの言葉を真に受け、酷く傷ついたり、怒りを覚えたり、子どもを叱ってしまったたり。それは悲しいです。子どもの言葉が増えて、言葉のやりとりで大丈夫だと思った事で、お互いの気持ちが離れてしまうなんて悲しい事です。言葉が話せるようになるまでは、この子はいま、どんな気持ちでいるのかを必死で考えて、本音と本音でぶつかり合っていたのに…。

<言葉じゃないっしょ！気持ちっしょ！！>

大人は子どもが言った事を、言ったまま受け取ろうとします。しかし、子どもは大人が言った事を、言ったまま受け取りません。それは何故でしょう？気がつけば、とても達者に喋るようになったとはいえ、言葉の意味をすべて理解できている訳ではないからです。子どもは大人の使う言葉の意味があやふやな分、コミュニケーションの大部分は、相手がどんな感情か、相手がどんな意図か、それを表情や態度から汲み取ろうとしているのだと思います。言葉だけを捉えてコミュニケーションするのではなく、気持ちや本音を分かってあげられる大人でいたいものです。

疲れている時や、イライラしている時など、精神的に不安定な時ほど、子どもが言った事を真に受けてしまいがちです。その裏に子どものどんな気持ちがあるのかしっかり想像できる余裕を持ちたいものですね。



言葉じゃないっしょ！気持ちっしょ！！

主任保育士 糸井恵太



# きたおおじアルバム

